

三木市記者発表資料（令和7年4月24日発表）			
担当部課名	担当長	担当係	電話番号
総合政策部 秘書広報課	課長 中尾吉伸 (内線 2410)	広報広聴係	0794-82-2000 (内線 2308)

タイトル	
令和7年全国広報コンクール広報企画で「入選」 ～全国広報コンクールで初めて入賞しました～	
本件のポイント	
・ 全国の自治体などの役に立つような教育・保育のための動画配信や書籍の商業出版まで手がけた企画が入賞しました。 ・ 三木市の全国広報コンクールでの入賞は初めてです。	
説明文	
1 受賞内容	広報企画 入選
2 受賞作品	『「もっと子どもたちと寄り添える時間を」 職員の広報企画で実現』
3 作品概要	利用している子どもの年齢などに応じて、国や県などがこども園などを財政支援する教育・保育給付制度があります。しかし、同制度は多くの自治体や教育保育担当者の頭を悩ませる難解さでも知られています。 三木市では、全国の自治体や教育保育施設の担当者に向けて、この制度を現職の公務員が現場目線で解説することで、各担当者が制度の理解と対応にかけてきた時間を短縮し、より子どもたちに目が行き届く環境が作りたいと考え、主に以下4点に取り組みました。 ①YouTubeに制度の解説動画を配信 ②制度解説を企画出版 ③パブリシティ ④ホームページ・SNSで情報拡散
4 講評	自治体職員にとっても教育・保育制度は複雑でわかりにくいもの。そのような中、モデルとなる対応方法を職員が果敢に提案する企画。YouTubeや出版物などをメディアミックスにて活用。全国の自治体職員に情報提供し、大きな反響を呼んだ。 他の自治体の業務に役立つよう成果をシェアする姿勢・マインドが素晴らしい。特に自ら企画を持ち込んで市の支出なしで出版にこぎつけたことはまさに快挙。メディアキャラバン等のパブリシティにつなげるために努力した点、SNSの有効活用を通じて社会課題の解決に資した点を高く評価する。



近年オンラインコミュニティなども育っているが、それだけではリーチできない層に予算をかけず広く早くアプローチできたのは素晴らしい。

中央政府ではなく基礎自治体が全国の自治体を支援するという発想や取り組みは貴重である。

5 ホームページ

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/7/81103.html>



本案件は次の SDGs 目標に関連します。

11 住み続けられる
まちづくりを

